



平成29年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成29年2月10日

上場取引所 東

上場会社名 尾家産業株式会社  
 コード番号 7481 URL <http://www.oie.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長  
 問合せ先責任者 (役職名) 管理本部副本部長  
 四半期報告書提出予定日 平成29年2月13日  
 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(氏名) 尾家 啓二  
 (氏名) 尾家 健太郎

TEL 06-6375-0158

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年3月期第3四半期の業績(平成28年4月1日～平成28年12月31日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年3月期第3四半期	69,799	5.6	575	7.6	641	9.2	199	△41.5
28年3月期第3四半期	66,102	11.8	535	8.5	587	9.1	341	7.2

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年3月期第3四半期	22.10	—
28年3月期第3四半期	37.78	—

(2) 財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円	%	百万円	%	%	円 銭	%	円 銭
29年3月期第3四半期	32,081		11,700		36.5	1,293.01		
28年3月期	28,772		11,609		40.4	1,283.04		

(参考)自己資本 29年3月期第3四半期 11,700百万円 28年3月期 11,609百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年3月期	—	9.00	—	9.00	18.00
29年3月期	—	9.00	—	—	—
29年3月期(予想)	—	—	—	9.00	18.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成29年3月期の業績予想(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	90,000	3.3	900	2.4	960	1.5	580	3.2	64.10

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
 ② ①以外の会計方針の変更 : 無  
 ③ 会計上の見積りの変更 : 無  
 ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	29年3月期3Q	9,255,000 株	28年3月期	9,255,000 株
② 期末自己株式数	29年3月期3Q	206,254 株	28年3月期	206,210 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	29年3月期3Q	9,048,786 株	28年3月期3Q	9,048,822 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、添付資料2ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	2
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項 .....	2
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	2
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	2
(3) 追加情報 .....	2
3. 四半期財務諸表 .....	3
(1) 四半期貸借対照表 .....	3
(2) 四半期損益計算書 .....	5
第3四半期累計期間 .....	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項 .....	6
(減損損失) .....	6
(継続企業の前提に関する注記) .....	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	6
(セグメント情報等) .....	6

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間におけるわが国の経済は、11月にアメリカ次期大統領にドナルド・トランプ氏が選任されたことにより、一挙にドル高円安が進み、株式市場も活況を呈しました。EU、中国や新興国の経済に陰りが見え出し、先行き不透明な状況が暫く続くと思われまます。また、慢性的な人手不足は、業界の垣根を越えて、物流費、人件費等の高騰を招き、企業の業績を更に厳しいものにしました。

当社の主要取引先であります外食業界におきましても、一部の業態（ファーストフードや焼肉業態等）では前年に比べ売上回復も見られましたが、消費者の可処分所得の減少は、節約志向に繋がり、低価格化へと、より厳しい競争を余儀なくされています。特に、若者のアルコール離れにより、居酒屋、パブでは前年同期と比較し、苦戦を強いられました。

このような経済環境の下、当社は長期的目標であります「いい会社をつくろう」を目指し、平成28年4月より、第三次3ヶ年中期経営計画「変革！Grow&Challenge」を実行しております。初年度の当期は、基本方針として新たに「安心・安全の徹底」「利益創出」「人財の育成」を掲げ、全社を挙げて計画達成に向けて取組んでおります。

営業政策としては、好調分野であるヘルスケアフード事業の年間売上予算を110億円と設定しております。目標達成のために、4ヶ所で「やさしいメニュー」セミナー&提案会の開催と各事業所におけるミニ提案会を開催し、全社を挙げてこの分野の強化に取組みました。平成28年8月中旬から9月末には恒例の秋季提案会を15会場で開催し、ほぼ計画通りの約7千名のお客様に会場を頂きました。新規のお客様も多数来場され、お取引のきっかけにも繋がりました。各メーカー様の協力を得て、新商品や新メニューの導入に努め、成果の見える化をいたしました。また、既存のお客様との取組みを更に深化させ、並行して新規得意先開拓に努力しております。

毎年恒例となりました大感謝セールは第10回目を迎え、平成28年12月1日～平成29年1月末まで、お客様に感謝の意味をこめて利益還元セールを実施いたしました。

拠点政策としては、平成28年10月に厚木営業所、静岡営業所、福井営業所、松山営業所、11月に東大阪営業所を、それぞれ新築移転をいたしました。更に、平成29年1月に神戸支店、第58期には、浜松営業所を増築、三重営業所、京都支店、奈良営業所、阪南支店を新築移転する予定であります。

平成28年12月末現在では、全国46事業所（11支店、33営業所、サンブラザ2店（業務用食品スーパー））と前期末と同数であります。

更に、物流業務（倉庫内作業）の精度向上とスピードアップを図るために、「ボイスシステム（音声による入庫作業と在庫管理システム）」を12月末迄に37ヶ所に導入が完了し、郡山営業所、高崎営業所と沖縄営業所、サンブラザを除く全41ヶ所に、今期中に導入を予定しております。

配送用車両の安全運転と燃費向上を目指して導入しました「無事故プログラムDR

（DRIVE REORDER）」は、約400台の全車両に設置が完了し、安全運転に努めております。

以上の結果、当第3四半期累計期間の業績は、売上高697億99百万円（前年同期比5.6%増）、営業利益5億75百万円（前年同期比7.6%増）、経常利益6億41百万円（前年同期比9.2%増）と増収増益となりました。一方、減損損失を計上したことで、四半期純利益は1億99百万円（前年同期比41.5%減）と減益となりました。

なお、当社は食品卸売事業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。

## (2) 財政状態に関する説明

## (資産)

当第3四半期末の総資産は、320億81百万円となり、前事業年度末と比較して33億8百万円の増加となりました。

主な要因は、受取手形及び売掛金が25億83百万円増加したこと、商品が12億26百万円増加したこと及び有形固定資産が10億17百万円増加したものの、現金及び預金が17億86百万円減少したことによりまます。

## (負債)

負債は203億80百万円となり、前事業年度末と比較して32億18百万円の増加となりました。

主な要因は、買掛金が32億53百万円増加したこと、未払金が1億98百万円増加したこと及びその他流動負債が1億25百万円増加したものの、賞与引当金が1億73百万円減少したこと、未払法人税等が2億33百万円減少したことによりまます。

## (純資産)

純資産は117億円となり、前事業年度末と比較して90百万円の増加となりました。

主な要因は、繰越利益剰余金が38百万円増加したこと及びその他有価証券評価差額金が53百万円増加したことによりまます。

## (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成29年3月期の業績予想につきましては、平成28年5月13日に公表いたしました業績予想に変更はございません。

## 2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

## (1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

## (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

## (3) 追加情報

（繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用）

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日）を第1四半期会計期間から適用しております。

## 3. 四半期財務諸表

## (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成28年3月31日)	当第3四半期会計期間 (平成28年12月31日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	6,593,160	4,806,970
受取手形及び売掛金	10,774,669	13,358,514
商品	2,559,770	3,785,888
繰延税金資産	186,820	110,902
未収入金	1,308,693	1,011,930
その他	24,338	63,550
貸倒引当金	△24,781	△30,729
流動資産合計	21,422,672	23,107,027
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物	1,327,579	1,390,513
減価償却累計額及び減損損失累計額	△655,608	△738,384
建物（純額）	671,971	652,129
建物附属設備	2,655,805	2,862,373
減価償却累計額及び減損損失累計額	△2,053,140	△2,000,034
建物附属設備（純額）	602,664	862,338
構築物	138,483	151,639
減価償却累計額及び減損損失累計額	△114,807	△115,509
構築物（純額）	23,676	36,129
機械及び装置	219,516	256,466
減価償却累計額及び減損損失累計額	△170,064	△172,827
機械及び装置（純額）	49,451	83,638
車両運搬具	2,515	2,515
減価償却累計額	△2,514	△2,514
車両運搬具（純額）	0	0
工具、器具及び備品	552,812	563,850
減価償却累計額及び減損損失累計額	△395,617	△415,440
工具、器具及び備品（純額）	157,194	148,409
土地	2,597,216	2,977,874
建設仮勘定	5,400	365,051
有形固定資産合計	4,107,576	5,125,571
<b>無形固定資産</b>		
ソフトウェア	199,291	158,648
ソフトウェア仮勘定	—	6,396
電話加入権	26,614	26,614
施設利用権	148	72
無形固定資産合計	226,053	191,731
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	961,229	1,139,454
差入保証金	1,666,602	2,022,765
会員権	34,126	34,084
保険積立金	30,960	30,960
破産更生債権等	57,533	83,152
繰延税金資産	334,536	444,017
その他	3,033	1,481
貸倒引当金	△71,642	△99,123
投資その他の資産合計	3,016,380	3,656,793
固定資産合計	7,350,010	8,974,096
資産合計	28,772,683	32,081,124

（単位：千円）

	前事業年度 (平成28年3月31日)	当第3四半期会計期間 (平成28年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	13,234,664	16,488,317
リース債務	111,909	88,023
未払金	124,625	322,733
未払費用	1,154,369	1,208,843
未払法人税等	277,588	43,713
賞与引当金	384,000	211,000
役員賞与引当金	18,000	—
資産除去債務	19,204	18,798
その他	21,013	146,731
流動負債合計	15,345,376	18,528,161
固定負債		
リース債務	177,688	125,258
退職給付引当金	1,179,045	1,249,889
役員退職慰労引当金	245,448	239,290
資産除去債務	190,369	212,786
その他	24,774	25,574
固定負債合計	1,817,326	1,852,798
負債合計	17,162,702	20,380,960
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,305,700	1,305,700
資本剰余金		
資本準備金	1,233,690	1,233,690
資本剰余金合計	1,233,690	1,233,690
利益剰余金		
利益準備金	154,131	154,131
その他利益剰余金		
特別償却準備金	2,472	631
別途積立金	4,600,000	4,600,000
繰越利益剰余金	4,083,735	4,122,657
利益剰余金合計	8,840,339	8,877,420
自己株式	△171,028	△171,078
株主資本合計	11,208,701	11,245,732
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	401,279	454,431
評価・換算差額等合計	401,279	454,431
純資産合計	11,609,981	11,700,164
負債純資産合計	28,772,683	32,081,124

（2）四半期損益計算書  
（第3四半期累計期間）

（単位：千円）

	前第3四半期累計期間 （自平成27年4月1日 至平成27年12月31日）	当第3四半期累計期間 （自平成28年4月1日 至平成28年12月31日）
売上高	66,102,099	69,799,963
売上原価	56,151,200	59,044,078
商品期首たな卸高	2,292,063	2,559,770
当期商品仕入高	57,277,958	60,270,197
商品期末たな卸高	3,418,821	3,785,888
売上総利益	9,950,899	10,755,885
販売費及び一般管理費	9,415,785	10,180,177
営業利益	535,114	575,707
営業外収益		
受取利息	4,218	4,173
受取配当金	11,322	12,021
受取賃貸料	24,406	29,270
雑収入	16,811	33,794
営業外収益合計	56,758	79,259
営業外費用		
支払利息	3,021	2,663
支払補償費	—	4,363
雑損失	1,690	6,580
営業外費用合計	4,712	13,607
経常利益	587,160	641,360
特別利益		
投資有価証券売却益	207	—
特別利益合計	207	—
特別損失		
固定資産除却損	—	7,307
減損損失	—	317,252
特別損失合計	—	324,559
税引前四半期純利益	587,368	316,800
法人税、住民税及び事業税	186,724	174,395
法人税等調整額	58,746	△57,554
法人税等合計	245,471	116,841
四半期純利益	341,897	199,959

（3）四半期財務諸表に関する注記事項

（減損損失）

大阪府貝塚市の阪南支店について、事業所の新築移転時期が明確となったことに伴い、将来キャッシュ・フローを見積った結果、資産グループの帳簿価額を下回ったため、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（セグメント情報等）

【セグメント情報】

当社は、食品卸売事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。